

広島市植物公園

見どころ案内

シクシャ (ショウガ科)

香りがよくてランのような白い花が咲くことから、東南アジアで広く栽培され、生け花や首飾りなどに利用されます。そのため各地で野生化し、原産地がわからないとか。耐寒性があります。

ニクイロシクシャ (ショウガ科)

ヒマラヤから中国南部に分布するオレンジ色のシクシャです。耐寒性があり花が美しいので観賞用に栽培されます。

奇想天外

(ウェルウィッチア科)

2枚の葉を出し続ける珍しい植物です。アフリカのナミブ砂漠だけに分布します。花が咲きました。

薬用植物展 展示温室にて
9/29 (日) まで開催中

マツリカ 茉莉花 (モクセイ科)

花をジャスミンティーの香りづけに使います。夜咲いて翌日の夜には散ります。

オオオニバス (スイレン科)

花は夜咲きで2晩咲きます。1晩めは白、2晩めはピンクです。原産地ではコガネムシが受粉をしますが、本園では人工授粉です。実は水の中でできるので、種がこぼれないように袋がかぶせてあります。

タマノカンザシ (ユリ科)

中国原産の大型のギボウシです。夜に甘く香ります。夕方、開く直前の花の香りがおすすめ。

タマアジサイ (ユキノシタ科)

つぼみが玉になる、おもしろいアジサイです。ピンポン玉の大きさになると玉がほどけるように花が咲きます。今なら花と玉の両方を見ることができます。

ツノゴマの仲間 (ツノゴマ科)

ツノゴマ、イビセラ・ルテア(黄花ツノゴマ)、フラグランスの花が咲いています。

ツノゴマは北アメリカ南部に分布し、角状の若い実はピクルスに利用されますが、

実が熟れてはじけると、かたくて鋭いトゲ状になって地面にころがります。踏むと痛いので、別名はタビトナカセ。若い実の形から英名はユニコーンフラワー。悪魔の爪とも呼ばれるそうです。

変化咲きアサガオ展
屋外展示場にて
9/1(日)まで開催

変化咲きアサガオ

(ヒルガオ科) 糸のように細く切れた花や牡丹のような八重、ナデシコ咲き、キキョウ咲きなど、さまざまなアサガオがあります。

アイ (タデアイ) (タデ科)

東南アジア原産の一年草です。赤みを帯びた小さな花が咲き始めました。生葉でも、うす青に染まりますが、伝統の藍染めは、葉を発酵させて作る染液を使います。

ソバ (タデ科)

中央アジア原産で、日本へは縄文時代に中国から渡ってきたとされています。花の進化園で、白い花が咲いています。

